

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

- Ⅰ 大田区学習効果測定の結果分析（昨年度の授業改善プランの検証を含む）
 正答率が目標値と比較して±5ポイントを基準として≒で表す。
 基準を上回るものを☆、下回るものを▽で表す。

	領域	令和7年度	令和6年度
第4学年	言葉の特徴や使い方に関する事項	≒	/
	情報の扱い方に関する事項	≒	
	我が国の言語文化に関する事項	≒	
	話すこと・聞くこと	≒	
	書くこと	▽	
	読むこと	☆	
第5学年	言葉の特徴や使い方に関する事項	≒	≒
	情報の扱い方に関する事項	≒	≒
	我が国の言語文化に関する事項	☆	≒
	話すこと・聞くこと	☆	☆
	書くこと	≒	≒
	読むこと	≒	≒
第6学年	言葉の特徴や使い方に関する事項	▽	▽
	情報の扱い方に関する事項	▽	▽
	我が国の言語文化に関する事項	▽	≒
	話すこと・聞くこと	≒	▽
	書くこと	▽	▽
	読むこと	▽	▽

〈昨年度の授業改善プランの成果〉

話す際の話型を示したり、スピーチ等の活動を継続的に行うことで、相手意識や目的意識をもって話したり聞いたり、司会などの役割を果たしながら話し合ったりする力が高まった。

〈正答率の低かった問題〉

4年…物事を比較しながら、自分の考えを書く

5年…読み取ったことをもとに、条件に合うように文を書く

6年…目的に応じて、文章を簡単に書く

2 授業改善のポイント

書くことの苦手意識を軽減し、目的や条件に応じた文章を書けるようにするために

低学年	継続的に視写の活動をし、マスの使い方に慣れるようにする。 自主学習等の機会を活用して、日記や振り返りの作文を書く活動をもつ。
中学年	必要に応じて型や表現技法を提示する。文章を見直す習慣を身につけられるようにする。内容や文字数の条件に合わせて書く練習をし、原稿用紙の使い方に慣れるようにする。
高学年	文章を書くときに相手意識や目的意識を明確にする。 書いた後に友達と文章を読み合い、良い点や改善点を伝え合う時間をもつ。